

Fabian Almazan & Linda Oh

[Profile]

ファビアン・アルマザン Fabian Almazan : piano



1984年キューバのハバナ生まれ、ニューヨーク在住。
幼少期よりピアノを初め、フロリダ州マイアミへ移住後にはニューワールド芸術高校でピアノを学ぶ。
在学中にオーディションを受け、2002年にNational Grammy High SchoolでのJazz Comboにて首席ピアニストに選出され翌年には、北カリフォルニアにBrubeck 特別研究生奨学金プログラムにおいても首席ピアニストの座を獲得。
2003年、マンハッタン音楽院にてKenny Barronのもとで学ぶためニューヨークへ移住。
在学中はGiampaolo Bracali氏に師事し彼の指導のもと、オーケストラや弦楽四重奏を含む室内重奏のための作品を制作／作曲。「Personalities」と題付けられた作品は2007年の"ASCAP 財団"のヤングジャズ作曲賞を受賞し、このアルバムは彼にとってのデビュー作となった。
2009年には、Michael W. Greene 奨学金の取得者に選ばれJason Moran氏からレッスンを受けるかわら、マンハッタン音楽院より修士号を獲得。
また、キューバの芸術機構である「シンタス財団」より2010/2011年度作曲部門Brandon Fradd賞を受賞。
2014年6月、「Rhizome」をブルーノート・レーベルよりリリースする。
2015年、自身のリーダートリオで初の来日ツアーを行い好評を博す。
現在、自己のグループで活躍するかたわらTerence Blanchardグループのピアニストとして世界ツアーを成功させる他、Gretchen Parlato, Paquito D'Rivera, Kendrick Scott Oracle, Ambrose Akinmusire、Mark Guiliana Quartetといった素晴らしいアーティスト達のツアーやレコーディングに参加している。

リンダ・オー Linda Oh : bass



マレーシアに生まれ、その後移住しオーストラリアで育つ。
4歳からクラシックピアノのレッスンを始める。また、11歳でクラリネットを始めその後ファゴットやバスーンなど様々な木管楽器を演奏する。
15歳の頃にエレキベースを始め、ロックバンドで演奏する傍ら地元のビッグバンドや高校ではJazzの演奏もする。
2002年、W.A Academy of Performing Arts (西オーストラリア芸術アカデミー)に入学し、そこで勧められてウッドベースのレッスンをスタートさせる。特に、レイ・ブラウン、スコット・ラファロ、チャーリー・ヘイデンを聴き込み、この3人のベーシストの影響を受ける。そして、ここからジャズへのアプローチの猛チャージが始まる。
2003年、ジェームス・モリソン奨学金のファイナリストになり、2004年には"IAJE Sisters in Jazz collegiate competition"の勝者となる。
2006年、NYへ移り"Betty Carter Jazz Ahead program"でのCreative Improvisationのプログラムに参加する。
2008年、マンハッタン音楽院でマスターズ課程をデイブ・リーブマン、ジェイ・アンダーソン、ジョン・ライリー、フィル・マコーウィッツなどに師事する。同年、ASCAP ヤングジャズ作曲賞を受賞。
2009年、「セロニアス・モンク コンペティション」のセミファイナリストに選ばれ賞賛を受ける。
2010年、オーストラリア若手Jazz音楽家としてベル・アワードを受賞。
同年、ベルリンで開催されたベース奏者の競技会において2位に選出される。

また、初リーダー・アルバム「Entry」を、'07年モンク・コンペティション優勝者アンブローズ・アッキムサリ、ウィントン・マルサリスやダニロ・ペレス、スティーブ・ターレのバンドで活躍しているドラマーObed Calvaireとのトリオ編成で制作し、その作品は注目作となる。
2013年リリースの「Sun Pictures」では、ピアノレス、ギター入りのクインテットで、ミニマル的なサウンドの中に緊張感を漂わせるエッジの効いた作品を展開しています。2016年、パット・メセニー・グループのメンバーとしてワールド・ツアーに参加する等目覚まし活躍で日本でも一躍注目される。
現在、ニューヨークでも話題のベーシスト。
<http://lindaohmusic.com/>